

『普通話三千常用詞表』と『古今小説』

1. 多音節形容詞

中村 浩一

On Common Words of Modern Chinese in *Gujin Xiaoshuo* 1. Adjective of Many Syllables

Koichi Nakamura

はじめに

教室で中国語を教えていると、初級の教科書に出てくる普通の言葉について、この言葉はいつ頃現れ、どのような意味用法の移り変わりがあったのだろうかという疑問を持つことがある。しかし、この疑問を解消するには多くの作業が必要である。

本稿はその作業のごく小さな一歩として、現代中国語に現れる常用語のなかの多音節形容詞を『古今小説』の時代に戻し、現在の常用語が当時の中国語のなかでどのような位置を占めていたのかを見ようとするものである。具体的には『普通話三千常用詞表』にあげてある言葉が『古今小説』にあるかどうか、あるとすればどのような意味の違いがあるかを調べる。現代語の資料としては『現代漢語詞典』を用いる。

多音節語をとりあげたのは単音節語に比べて変化が大きいのではないかと思われること、語の認定が単音節語に比べて比較的容易であると思われることからである。

『普通話三千常用詞表』にあげてある多音節形容詞のなかで、そのなかのいくつかは語、もしくは連語は形容詞とみなせないものがあるので、これらは対象から除き、247語を取り扱う。

『現代漢語詞典』と『古今小説』では個々の語について前者が圧倒的に多くの情報をもつが、一応以下の3項に分けて考える。

A. 『現漢』と異なるもの

『古今小説』における意味範囲と『現代漢語詞典』にあげる意味範囲がまったく異なるか、一部が異なるもの。

B. 『現漢』と同じもの

『古今小説』における意味範囲が『現代漢語詞典』にあげる意味範囲とまったく同じか、『現代漢語詞典』にあげる意味の一部をもつもの。ここでは該当する語の『古今小説』におけるすべての意味用法をあげる。

C. 『古今』にないもの

『現代漢語詞典』には採録されているが、『古今小説』にはないもの。

テキストは許政揚校注『古今小説』を用いる。

1. 人や事物の形や性質、状況を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 乾淨

『現漢』には(1)「清潔である」(2)「(動作や話し方が) さっぱりしている」(3)「残っていない」という意味があげられている。『古今』でも(1)～(3)の意味で用いられている。

(1) 清潔である

馬周道：「俺一路行來，沒有洗腳，且討些乾淨熱水用用。(5・98「第5回98頁」以下同様)

大郎道：「看老人家面上，胡亂拿去罷。」兩個連夜又去別處偷得一隻狗子，擣剝乾淨了，煮得稀爛。(15・222)

(2) 「(動作や話し方が) さっぱりしている」

知事道：「有這等事，真乃逆天之事，世間有這等惡人！口不欲説，耳不欲聞，筆不欲書，就一頓打死他倒乾淨，此恨怎的消得！」(26・401)

可憐四年恩愛，一旦決絶，是我做的不是，負了丈夫恩情。便活在人間，料沒有箇好日，不如縊死，到得乾淨。(1・25)

(3) 残っていない

真人用手一一接之。擲了又摘，摘了又擲；下邊擲，上邊接，把一樹桃子，摘箇乾淨。(13・197)

郭興招引地方將董四背剪擲起，頭髮都擣得乾乾淨淨，一步一棍，解到宿松縣來。(39・609)

『古今』ではこのほかに「(事を)終わらせる」という意味で用いられている。

阮二吃了一驚，便道：「師父，怎地把我兄弟壞了性命？這事不得乾淨！」(4・90)

2. 廣大

『現漢』には(1)「広い」(2)「(規模が) 大きい」(3)「(人数が) 多い」という意味があげられているが、『古今』ではそのような意味では用いられない。『古今』においては次のような意味で用いられている。

(1) (建物が) 大きい

貴人上樓去，番官人從樓下坐。原來秦樓最廣大，便似東京白樊樓一般；樓上有六十個閣兒，下面散鋪七八十副卓凳。(24・369)

(2) (仏法や妖術の力が) 強い

山中諸弟子曉得真人法力廣大，只有王長一人私得其傳，紛紛議論，盡疑真人偏向，有吝法之心。(13・193)

如春道：「走不得。申公妖法廣大，神通莫測。他若知我走，趕上時，和官人性命不留。(20・294)

B. 『現漢』と同じもの

1. 光滑(つるつるしている)

三巧兒摸着身子，道：“你老人家許多年紀，身上恁般光滑！”那人並不回言，鑽進被裏。(1・20)

2. 光明(光)

一日，理宗皇帝遊苑，登鳳皇山，至夜望見西湖內燈火輝煌，一片光明。(22・335)

大伯道：“老也，月過十五光明少，人到中年萬事休。”恭人道：“也是說一個五十來歲的。”(33・491)

『古今』には「明るい」という形容詞の用法はみられない。

3. 黑暗

(1) 暗い(形容詞)

萬里新墳盡少年，修行莫待鬢毛斑。前程黑暗路頭險；十二時中自著研。(29・428)

(2) 暗闇(名詞)

卻說薛婆約定陳大郎這晚成事，午後細雨微茫，到晚卻沒有星月。婆子黑暗裏引着陳大郎埋伏在左近，自己卻去敲門。(1・17)

婆子道：“走熟的路，不消用火。”兩箇黑暗裏開了門，摸上樓來。(1・18)

4. 茂盛((木が) 茂る)

世宗皇帝本姓柴名榮，木頭茂盛，正合姓名，又有“長久”二字，只道是佳兆；(14・207)

命梢公開船，遠望岸上草木茂盛之處，急無人到，就那里將朱蛇放了。(34・505)

5. 平靜(平穩である)

我方欲動身，不想有此寇警。倘或倭寇早晚來時，閉了城門，知道何日平靜？(18・259)

6. 強壯(丈夫である)

其男子但是老弱，便加殺害；若是強壯的，就把來剃了頭髮，抹上油漆，假充倭子。(18・260)

7. 熱鬧

(1) にぎやかである(形容詞)

今日大唐仍建都于長安，這新豐總是關內之地，市井稠密，好不熱鬧！(5・98)

況杭州是箇熱鬧去處，怎見得杭州好景？(23・357)

(2) にぎやかにする(動詞)

柴夫人……，看着王婆道：“街上如何直恁地冷靜？”王婆道：“覆夫人，要熱鬧容易。夫人放買市，這經紀人都來趕趁，街上便熱鬧。”(15・222)

8. 烏黑(真っ暗である)

只見那風從西北角上吹將來，初時揚塵，次後拔木，一江綠水都烏黑了。(19・274)

9. 雄壯(勇ましい)

又聞有“氣蒸雲夢澤，波撼岳陽樓”之句，何其雄壯！昨在朕前，偏述枯槁之辭；又且中懷怨望，非用世之器也。(12・176)

汪革下馬入廟，廟祝見人馬雄壯，刀仗鮮明，正不知甚人，唬得尿流屁滾，跪地迎接。(39・601)

10 稀少((数や量が) 少ない.)

這伙子弟在阮三家，吹唱到三更方散。阮三送出門，見行人稀少，靜夜月明如晝，向衆人說道：…
(4・8)

歇不得兩日，又去相會，正是情濃似火。此時牛皮街人煙稀少，因此走動，只有數家鄰舍，都不知此事。(38・573)

齋罷，夫人見小姐飯食稀少，洋洋瞑目作睡。夫人道：“孩兒，你今日想是起得早了些。”(4・89)

11. 衆多(多い)

卻說葛令公姬妾衆多，嫌宅院狹窄，教人相了地形，在東南角旺地上另創個衙門，極其宏麗。(6・107)
教羅童入申陽洞中，將衆多婦女各各救出洞來，各令發付回家去訖。(20・295)

C. 『古今』にないもの

骯臟(汚い)、白色(白い)、薄弱(薄弱である)、粗糙(粗い)、腐朽(腐って朽ちてる)、高大(高く大きい)、鞏固(しっかりしている)、廣泛(広範囲である)、黑色(黒い)灰色(灰色である)健康(健康である)、結實(丈夫である)、金色(金色である)、流利(流暢である)、清潔(清潔である)、清靜(静かである)、整齊(整っている)、軟弱(弱い)、旺盛(盛んである)、衛生(衛生的である)、細膩(きめ細かい)、棕色(褐色である)

2. 事物のみえない性質を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 安穩

『現漢』には(1)「安定している」(2)「平穩である、平静である」(3)「(態度が) 落ち着いている」という意味があげられている。『古今』でも(2)の意味で用いられている。

我到此，覓箇僻靜下處，悄悄通箇信兒與你，那時兩口兒同走，神鬼不覺，卻不安穩？(1・21)

縣衙此去方安穩，絕勝存孤趙氏宮。(22・331)

本衙門聽事官率領人夫，向胡氏磕頭，到把胡氏險些唬倒。聽事官致了制使之命，方才心下安穩。
(22・336)

『古今』ではこの他次のように「落ち着かせる」という動詞の意味で用いられている。

楊知縣到得縣裏，徑進後堂衙裏，安穩了奶奶家小，才出到後堂，與典史拜見。(19・277)

2. 不利

『現漢』には「不利」という意味があげられている。この意味の用例は『古今』にもみられる。

吾嘗與鮑叔談論，鮑叔不以我為愚，知時有利不利也；吾嘗與鮑叔為賈，分利多，鮑叔不以我為貪，知我貧也。(7・114)

『古今』ではこの他に次のように「不吉である」という意味で用いられている。

母曰：“吾兒去山陽千里之遙，月餘便回，何故出不利之語？”劭曰：“生如浮漚，死生之事，且夕難保。”慟哭而拜。(16・243)

3. 方便

『現漢』には(1)「便利である」(2)「便利にする」(3)「適切である」(4)「(金銭的に)余裕がある」(5)「用便する」という意味があげられている。『古今』での意味範囲は広い。まず、『現漢』と同じ次の用法がある。

(1) 便利である

保安仍留家小在遂州，單身到京，陞補嘉州彭山丞之職。那嘉州仍是西蜀地方，迎接家小又方便，保安歡喜赴任去訖，不在話下。(8・129)

千不合，萬不合，教女兒出來相見，又教女兒自往東廂敘話，這分明放一條方便路，如何不做出事來？(2・46)

(2) 適切である、都合がいい

小姐道：「便是爹媽容奴去時，母親在前，怎得方便？」(4・87)

馬周道：「俺一路行來，沒有洗腳，且討些乾淨熱水用用。」王公道：「鍋子不方便，要熱水再等一會。」(5・98)

(3) (金銭的に) 余裕がない

漢老一時應承了，只得也取出十兩銀子，做一堆兒放着。便道：「小人今日不方便在此，只有這十兩銀子，做兩局賭麼？」(21・301)

(4) 用便する

走了幾步，又裏急起來，覷個毛坑上自在方便了，慢慢的望東門而去。(40・627)

張勝也十分小心在意，雖泄溺亦必等到黑晚，私自去方便，不令人瞧見。(28・421)

『古今』ではこの他に次のような意味で用いられている。

(1) 便宜をはかる

此僧乃古佛出世，在竹林峰修行已五十二年，不曾出來。每遇迎送，自有徒弟。望相公方便。(29・429)

(2) 方法

三巧兒千恩萬謝，又道：「妾與哥哥久別，渴思一會，問取爹娘消息。官人如何做箇方便，使妾兄妹相見，此恩不小。」(1・33)

我若再守你七年，連我這骨頭不知餓死于何地了。你倒放我出門，做個方便，活了我這條性命。(27・405)

(3) 善行

「善哉，善哉！」正所謂：日日行方便，時時發道心。但行平等事，不用問前程。(30・446)

村中有箇財主，姓黃名岐，家資殷富，不用大秤小斗，不違例剋剝人財，坑人陷人，廣行方便，普積陰功。(37・553)

(4) 善行を行う

在萬松嶺下，造石橋一座，名曰柳翠橋；鑿一井於抱劍營中，名曰柳翠井。其他方便濟人之事，不可盡說。(29・436)

B. 『現漢』と同じもの

1. 不錯

『現漢』には「正しい」という語と「良い」という語の2語として採られている。『古今』では前者の意味で用いられ、後者の例はみられない

喚判官將冊過來，一一與他判斷明白：恩將恩報，仇將仇報，分毫不錯。(31・471)

2. 不得已(止むを得ない)

他夫婦原是十分恩愛的，因三巧兒做下不是，興哥不得已而休之，心中兀自不忍；…(1・33)

司戶被孺人強逼數次，不得已，先去與鄭司理說知了，捉了他同去見太守，委曲道其緣故。(17・254)

甚不得已，好歹一年便回，寧可第二遍多去幾時罷了。(1・4)

3. 不同(違う)

他的法術，不知那里學來的，比我們的不同。(19・280)

此人文章冠世，舉筆珠璣，從幼與謝瑞卿同窗相厚，只是志趣不同。(30・451)

4. 不幸(不幸である)

韓思厚讀罷，以手拊壁而言：「我妻不幸為人驅虜。」(24・375)

這官人不幸父母蚤亡，只單身獨自。自小好學，學得文武雙全。(20・285)

5. 差不多(ほとんど同じである)

三巧兒取笑道：「莫非是你老相交送的表記。」婆子笑道：「也差不多。」當夜兩箇耍笑飲酒。(1・18)

6. 湊巧((ある時、場に)でつくわす、時宜を得ている)

賈涉見了哥哥，心下想道：「此來十分湊巧。」便將娶妾生子，並唐氏嫉妒事情，細細與賈濡說了。(22・331)

王小四發箇喉急，便道：「你不去時，我没處尋飯養你。」賈涉見他說話湊巧，便詐推解手，卻分付家童將言語勾搭他道：…(22・328)

7. 錯誤(誤っている)

有人作『如夢令』詞云：可惜名花一朵，繡幙深闌藏護。不遇探花郎，抖被狂蜂殘破。錯誤，錯誤！怨殺東風分付。(2・45)

8. 公平(公平である)

重湘道：「既說陰司報應不爽，陰間豈無冤鬼？你敢取從前案卷，與我一一稽查麼？若果事事公平，人人信服，我司馬貌甘服妄言之罪。」(31・463)

9. 一般(同じである)

那客人力大，把金孝一把頭髮提起，象只小雞一般，放番在地，捻着拳頭便要打。(2・39)

晴雲已自報知主母，三巧兒把婆子當箇貴客一般，直到樓梯口邊迎他上去。(1・14)

10. 一樣(同じである)

今日娶過門來，果然嬌姿艷質，說起來，比他兩箇姐兒加倍標致。正是：吳宮西子不如，楚國南威

難賽。若比水月觀音，一樣燒香禮拜。(1・4)

11. 要緊

『現漢』には(1)「重要である」(2)「ひどい」(3)「焦る」という意味があげてあり、(3)を方言としている。『古今』では(1)(3)の意味で用いられており、(2)の意味では用いられない。

(1)「重要である」

三巧兒喚丫鬟看茶，婆子道：「不擾茶了。老身有件要緊的事，欲往西街走走，遇着這箇客人，纏了多時，…」(1・12)

興哥聞得是下路人，愈加歡喜。這里平氏分文財禮不要，只要買塊好地殯葬丈夫要緊。(1・30)

(3)「焦る」

衆人道：「客人，你要緊脫貨，這位梁大官，又是貪便宜的，依我們說，從中酌處，一百七十兩，成了交易吧」(2・56)

大家在此幫說句話兒，催他出來，也是個道理。你是吃飽的人，如何去得這等要緊？(40・629)

12. 有用(役に立つ)

詩曰：結交須結英與豪，勸君莫結兒女曹。英豪際會皆有用，兒女柔脆空煩勞。(15・234)

李公指着道：「此人膽力頗壯，將軍同他去時，緩急有用。」(39・597)

13. 真正(真の)

那老兒道：「老漢到曉得三分，特來相報員外。若不信時，老漢願指引同去起贓。見了真正贓物，老漢方敢領賞。」(36・546)

除非不要性命的，才敢開口說句公道話兒；若不是真正關龍逢、比干，十二分忠君愛國的，寧可誤了朝廷，豈敢得罪宰相？(40・612)

14. 仔細

『現漢』では(1)「(仕事ぶりが) きめ細かい」(2)「注意深い」(3)「つましい」という意味をあげ、(3)を方言としている。

(1) (仕事ぶりが) きめ細かい

御史取了招詞，喚園公老歐上來：「你仔細認一認，那夜間園上假裝魯公子的，可是這箇人？」(2・57)

小姐先在門傍守候，覷着阮三目不轉睛，阮三看得女子也十分仔細。(4・83)

(2) 注意深い

宦家門牆，不知深淺，令岳母夫人雖然有話，衆人未必盡知，去時也須仔細。(2・43)

魯公子作揖轉身，梁尚賓相送一步，又說道：「兄弟你此去須是仔細，不知他意兒好歹，真假何如。…」(2・47)

C. 『古今小説』にないもの

安全 (安全である)、寶貴 (大切である)、必要 (必要である)、不得了 (どうにもならない)、當真 (ほんとうである)、惡劣 (下品である)、複雜 (複雑である)、公開 (公然の)、共同 (共同の)、貴

重（貴重である）、合理（合理的である）、合適（ぴったりしている）、尖銳（鋭い）、簡單（簡単である）、精採（すばらしい）、經常（いつもきまった）、基本（基本の）、絶對（絶對の）、具體（具体的である）、可靠（頼れる）、困難（困難である）累贅（煩わしい）、了不得（へんである）、了不起（たいしたものである）、密切（密接である）、片面（一面的である）、普遍（普遍的である）、恰好（ちょうどよい）、全部（全部の）、全面（全面的である）、確實（確實である）、任何（いかなる）、實際（實際の）、適當（適當である）、特別（特別である）、同様（同様の）、統一（統一した）、妥當（妥當である）、危險（危ない）、相反（相反する）、稀奇（珍しい）、嚴密（密接である）、嚴重（おごそかである）、一部分（一部分の）、永久（永久の）、糟糕（だめである）、正常（正常である）、正確（正しい）、正式（正式である）、重要（重要である）、主要（主要な）

3. 人の感じる温度、味、香りなどをあらわすもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 安靜

『現漢』には(1)「静かである」(2)「穏やかである」という意味があげられている。『古今』ではそのような用法はみられず、次のように「(戦争がなくて) 平和である」という意味で用いられている。

這一節，傳出軍中，都知道，沒一個人不誇揚令公仁德，都願替他出力盡死。終令公之世，人心悅服，地方安靜。(6・113)

話說大宋乾道淳熙年間，孝宗皇帝登極，奉高宗為太上皇。那時金邦和好，四郊安靜，偃武修文，與民同樂。(39・587)

2. 輕鬆

『現漢』には「軽やかである、楽である」という意味があげられているが、『古今』にはそのような意味での用法はなく、次のように「軽くする」という動詞の意味で用いられている。

梁尚賓道：「一時間那得箇主兒？須是肯折些，方有人食你。」客人道：「便折十來兩，也說不得。只要快當，輕鬆了身子，好走路。」(2・55)

3. 響亮

『現漢』には「(声が) 大きい」という意味があげられているが、『古今』にはそのような意味での用法はなく、次のように「大きな音」という名詞の意味で用いられている。

英臺果然走出轎來，忽然一聲響亮，地下裂開丈余，英臺從裂中跳下。(28・418)

纔然自付，只聽得一聲響亮，萬道火光，飛騰繚繞。復仁驚醒來，這小姐也卻好放參。(37・556)

4. 艱苦(苦しみ)

『現漢』には「苦しい」という形容詞の意味があげられているが、『古今』にはそのような用法はなく、次のように「苦しみ」という名詞の意味で用いられている。

十年之中，備嘗艱苦，肌膚毀剔，靡刻不淚。牧羊有志，射雁無期。而遂州方義尉吳保安，適至姚州，…(8・132)

B. 『現漢』と同じもの

1. 惡心

(1) 吐き気がする(形容詞)

卻說陳小姐自從閒雲菴歸後，過了月余，常常惡心氣悶，心內思酸，一連三箇月經脈不舉。(4・91)

(2) 惡心(名詞)

徑投一箇去處，有分教任珪小膽番為大膽，善心改作惡心；大鬧了日新橋，鼎沸了臨安府。(38・580)

2. 好看

(1) きれいだ、見た目がいい

夫人道：“這聖像完了中間一尊，也就好看了。那兩尊以次而來，少不得還要助些工費。”(4・86)

瑞卿道：“朝廷設醮，雖然儀文好看，都是套數，那有什麼高僧談經說法，使人傾聽？”(30・452)

(2) 体裁がいい

這夥親族，平昔曉得善繼做人利害，又且父親親筆遺囑，那個還肯多嘴，做閒冤家？都將好看的話兒來說。(10・154)

吳山道：“行不得！倘被人知覺，卻不好看，況此間耳目較近。”(3・66)

3. 好聽(耳に心地よい)

身邊並無財物，止有一個畫眉籠兒，這畜生此時越叫得好聽。(26・392)

那畫眉見了沈昱眼熟，越發叫得好聽，又叫又跳，將頭顛沈昱數次。(26・397)

4. 疼痛

(1) 痛い(形容詞)

約莫也是三更，長老忍口不住，乃問紅蓮曰：“小娘子，你如何只顧哭泣？那裏疼痛？”(29・430)

便在樓下叫道：“我肚饑了，要飯喫！”婦人應道：“我肚裏疼痛，等我便來。”(38・574)

(2) 痛み(名詞)

孟夫人忍着疼痛，傳話請公子進來。公子來到繡閣，只見牙床錦被上，直挺挺躺着個死小姐。(2・50)

那釘頭入肉已久，膿水幹乾後，如生成一般，今番重復取出，這疼痛比初釘時，更自難忍，血流滿地，仲翔登時悶絕。(8・128)

5. 心慌(心配である)

直到二月初旬，椿樹抽芽，不見些兒動靜。三巧兒思想丈夫臨行之約，愈加心慌，一日幾遍，向外探望。(1・6)

知府道：“那頭彼時放在那裏？”張公道：“小人一時心慌，見側邊一株空心柳樹，將頭丟在中間。…(26・400)

6. 辛苦

(1) つらい(形容詞)

又囑付梁媽媽道：“婆子走路辛苦，一發留他過宿，明日去罷。”(2・43)

那老道人自去收拾，關門閉戶已了，來房中土榻上和衣而睡。這老道人日間辛苦，一覺便睡著。(29・430)

(2) 苦勞する (動詞)

陳先生自飲了御酒，便向蒲團睡去。妾等候至五更方醒，他說：‘勞你們辛苦一夜，無物相贈。’(14・205)

依我看來，這銀子雖非是你設心謀得來的，也不是你辛苦掙來的。只怕無功受祿，反受其殃。(2・38)

(3) 苦勞 (名詞)

楊八老在日本國受了一十九年辛苦，誰知前妻李氏所生孩兒楊世道，後妻葉氏所生孩兒葉世德，長大成人，…(18・268)

C. 『古今』にないもの

好吃 (おいしい)、好聞 (いいにおいがする)、恐慌 (恐ろしい) 涼快 (涼しい)、難吃 (まずい)、難聽 (聞き苦しい)、暖和 (暖かい)、甜蜜 (甘い)

4. 人の容貌をあらわすもの

A. 『現漢』と異なるもの

該当するものはない。

B. 『現漢』と同じもの

1. 醜陋(醜い)

古人長者最多，其性極淳，醜陋如獸者亦多，神農氏頂生肉角。豈不聞昔人有雲：‘古人形似獸，卻有大聖德；今人形似人，獸心不可測。’(25・384)

2. 美麗(きれいである)

這一日，比公堂筵宴不同，只有賓主二人，單司戶纔得飽看楊玉，果然美麗。(17・249)

明宗從其言，于宮中選二八女子三人，美麗無比，裝束華整，更自動人，…(14・204)

C. 『古今』にないもの

殘廢 (不具である)、醜陋 (みにくい) 漂亮 (きれいである)、難看 (みにくい)、年輕 (若い)

5. 人の品性や行為をあらわすもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 大膽

『現漢』には「大胆である」という意味があげられているが、『古今』でもそのような意味で用いられる。

衆人怕事的，四散走開去了。也有幾個大膽的，站在傍邊看縣尹相公怎生斷這公事。(2・40)

住了二十余日，湖中並無動靜。有幾箇大膽的乘個小撈船，哨探出去，…(39・603)

『古今』ではこの他に「あつかましい」という意味で用いられている。

說罷，將金錠放銀包內，一齊包起，叫聲：‘老身大膽了。’拿向卧房中藏過，忙趲出來，道：‘大官人，老身且不敢稱謝，你且說甚麼買賣，用老身處？(1・8)

2. 大意

『現漢』には「大胆である」という形容詞と「大意」という名詞で採られている。『古今』には形

容詞の用法はみられず、次のような名詞の用法のみである。

(1) 大意

陳搏説其緣故，就懷中取出書來看時，乃是一本『周易』。陳搏便能成誦，就曉得八卦的大意。(14・203)

(2) 大体の考え

善繼見他大意，到不來看了。夫妻兩口兒亂了一回，自去了。(10・152)

李萬託着大意，又且濟寧是他慣走的熟路，東門馮主事家，他也認得，全不疑惑。(40・627)

B. 『現漢』と同じもの

1. 誠懇(心がこもっている)

安居見他誠懇，乃曰：「僕有幼女，最所鐘愛，勉受一小口爲伴，餘則不敢如命。」(8・129)

2. 出色(抜きん出ている)

王公先前嫁過的兩箇女兒，都是出色標致的。(1・3)

原來令公姬妾雖多，其中只有一人出色，名曰弄珠兒。(6・107)

原來李英有一件出色的本事，第一手好針線，能于暗中縫紉，分際不差。(17・253)

3. 聰明(賢い、利口である)

光陰似箭，不覺長成六歲，生得清奇，與阮三一般標致，又且資性聰明。(4・93)

今番見蔣世澤帶箇孩子到來，問知是羅家小官人，且是生得十分清秀，應對聰明，想着他祖父三輩交情，如今又是第四輩了，那一箇不歡喜。(1・2)

他是個聰明俊俏的人，幹事活動，又不是一個木頭的老實；…(3・64)

4. 粗魯(そっそかしい)

這僧人說是伏牛山來的，且是粗魯，不肯小心。(19・271)

5. 膽小(肝が小さい)

原來走私商道路的，第一次膽小，第二次膽大，第三第四次渾身都是膽了。(21・306)

6. 規矩

『現漢』には(1)「きまり」(名詞)(2)「折り目正しい」(形容詞)という意味があげられているが、『古今』には形容詞の用法はみられず、次のような名詞の用法のみである

原來宋朝有這個規矩，凡在籍娼戶，謂之官妓，官府有公私筵宴，聽憑點名喚來祇應。(17・248)

劉八太尉道：「快請進。」原來內相衙門，規矩最大。尋常只是呼喚而已，那箇「請」字，也不容易說的。(22・334)

7. 和氣

『現漢』には(1)「穏やかである」(形容詞)(2)「仲むつまじい気持ち」(名詞)という意味があげられているが、『古今』には形容詞の用法はみられず、次のような名詞の用法のみである。

嘉靖爺正當設醮祝釐，見説殺害平民，大傷和氣，龍顏大怒，着錦衣衛扭解來京問罪。(40・636)

藥媽媽看見楊八老本錢豐厚，且是志誠老實，待人一團和氣，十分歡喜，意欲將寡女招贅，以靠終

身。(18・258)

8. 糊塗(愚かである)

興哥大怒，把書扯得粉碎，撒在河中；提起玉簪在船板上一擲，折做兩段。一念想起道：「我好糊塗！何不留此做箇證見也好。」(1・23)

9. 有名(有名である)

田貢元原是石城縣中有名的一個豪傑。…(2・46)

那貫休是個有名的詩僧，因避黃巢之亂，來于越地，將此詩獻與錢王求見。(21・297)

10. 愚蠢(愚かである)

只因這老狗失志，說了這幾句言語，況兼兩個兒子又是愚蠢之人，不省法度的。(26・395)

C. 『古今』にないもの

卑鄙(卑しい)、殘酷(殘酷である)、殘忍(殘忍である)、粗魯(荒っぽい)、粗心(うかつである)、大方(おっとりしている)、腐化(腐敗している)、乾脆(さっぱりしている)、和氣(穏やかである)、滑頭(ずるい)、活潑(活発である)、激烈(激しい)、急躁(焦る)、堅決(断固としている)、堅強(強固である)、驕傲(傲慢である)、緊張(緊張する)、緊張(緊張する)、精明(賢い)、可怕(怖い)、可惡(憎たらしい)、客氣(礼儀正しい)、懶惰(怠惰である)、厲害(ひどい)、靈便(身軽である)、靈活(融通がきく)、伶俐(利発である)、羅嗦(煩わしい)、麻醉(麻痺している)、馬虎(いかげんである)、冒失(そそっかしい)、能幹(有能である)、懦弱(いくじがない)、疲踏(たるんでいる)、朴素(素朴である)、起勁兒(張り切る)、謙虛(謙虚である)、強烈(強烈である)、親愛的(親しい)、勤快(勤勉である)、熱情(暖かい)、熱烈(熱がこもっている)、熟練(熟練している)、爽直(率直である)、隨便(自由である)、踏實(着実である)、外行(素人である)、頑皮(やんちゃである)、頑固(頑固である)、頑強(頑強である)、偉大(偉大である)、溫和(温和である)、文明(ハイカラである)、小氣(けちである)、嚴格(厳格である)、嚴厲(厳しい)、嚴肅(厳肅である)、野蠻(野蠻である)、陰險(陰險である)、勇敢(勇敢である)、愚笨(愚かである)、週到(周到である)、主動(自発的である)、自私(利己的である)

6. 人の感情や思想を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 難過

『現漢』には(1)「(暮らしが)たいへんだ」(2)「つらい」という意味があげられているが、『古今』では次のように「過ぎしがたい」という動詞の意味が強い。

那話兒到是不曉得滋味的到好，嘗過的便丟不下，心坎裏時時發癢。日裏還好，夜間好難過哩。(1・19)

大凡人不做指望，到也不在心上；一做指望，便癡心妄想，時刻難過。三巧兒只爲信了賣卦先生之語，一心只想丈夫回來。…(1・6)

2. 悲哀

『現漢』には「悲しい」という意味があげられているが、『古今』では次のように「泣く」という動詞の意味で用いられている。

怎當紅蓮哽咽悲哀，將身靠在長老身邊，哀聲叫疼叫痛，就睡倒在長老身上，或坐在身邊，或立起叫喚不止。(29・430)

B. 『現漢』と同じもの

1. 慚愧(恥ずかしい)

常何大驚問道：“御史公有宅眷否？”馬周道：“慚愧，實因家貧未娶。”(5・102)

錢公因自己錯呼救火，高惱了鄰里，十分慚愧，正不過意，又見了這條大晰蜴，都是怪事，…(21・298)

大尹自己緝獲不着，到是錢大王送來，好生慚愧，便罵道：“你前日到本府告失狀，開載許多金珠寶貝。…(36・546)

2. 暢快(気分がいい)

兩人摟做一團。說了幾句情話，雙雙解帶，其實暢快。(4・89)

3. 高興(うれしい)

或時唾罵嚴賊，地方人等齊聲附和，其中若有不開口的，衆人就罵他是不忠不義。一時高興，以後率以爲常。(40・617)

4. 歡喜

(1) うれしい

問知是羅家小官人，且是生得十分清秀，應對聰明，想着他祖父三輩交情，如今又是第四輩了，那一箇不歡喜。(1・2)

渾家摸他身上，已住了熱，起身下床解手，又不瀉了。一家歡喜。(3・77)

(2) 好きである (動詞)

這婆子俐齒伶牙，能言快語，又半癡不顯的慣與丫鬟們打諢，所以上下都歡喜他。(1・15)

陳大郎擡頭，望見樓上一箇年少的美婦人，目不轉睛的，只道心上歡喜了他，也對着樓上丟箇眼色。(1・7)

5. 快活(気持ちがいい)

只見先生把腰一伸，睜開雙眼說道：“正睡得快活，何人攪醒我來？”(14・206)

婆子並不爭論，歡歡喜喜的道：“恁地，便不枉了人。老身就少賺幾貫錢，也是快活的。”(1・13)

6. 快樂(楽しい)

卻說倪善繼獨罝家私，心滿意足，日日在家中快樂。(10・158)

如春見說，哀哀痛哭，告申公曰：“奴奴不願洞中快樂，長生不死；只求早死。若說雲雨，實然不願。”(20・289)

7. 耐心(がまん強い)

娘子權且耐心，到明年此時，我到此，覓箇僻靜下處，悄悄通箇信兒與你，…(1・21)

我五十歲上發跡，比甘羅雖遲，比那兩個還早，你須耐心等去。”(27・405)

8. 美滿 (満ち足りている)

成親之夜，一般大吹大擂，洞房花燭。正是：規矩熱鬧雖舊事，恩情美滿勝新婚。(1・30)

9. 難受 (つらい)

怎見得？曾有一夜遊宮詞：四百四病人皆有，只有相思難受。不疼不痛在心頭，魘地教人瘦。…(33・491)

10. 痛苦

(1) 苦しい (形容詞)

楊知縣帶着眼淚，說道：“財物恁憑長老，奶奶取去，只是痛苦不得過。”(19・283)

沈昱見了，想起兒子，千行淚下，心中痛苦，不覺失聲，叫起屈來，口中只叫得：“有這等事！”(26・397)

(2) 苦痛 (名詞)

那新丁最惡，差使小不遂意，整百皮鞭，鞭得背都青腫，如此已非一次。仲翔熬不得痛苦，捉箇空，又想逃走。(8・128)

那掌管禽鳥的校尉喝道：“這廝好不知法度，這是甚麼所在，如此大驚小怪起來！”沈昱痛苦難伸，越叫得響了。(26・397)

11. 憂愁 (心配である)

元來人困後，多是肚中不好了，有那與決不下的事，或是手頭窘迫，憂愁思慮。故困字着個貧字，謂之貧困；愁字，謂之愁困；憂字，謂之憂困；…(15・231)

已再三叮嚀張勤，令侍養老母。母須蚤晚勉強飲食，勿以憂愁，自當善保尊體。(16・243)

12. 冤枉

(1) 無念である

御史道：“招上說三日後又去，是怎麼說？”魯學曾口稱“冤枉”，訴道：“小人的父親存日，定下顧家親事。…(2・53)

以臣愚見，不若押司馬貌到陰司，權替閻羅王半日之位，凡陰司有冤枉事情，着他剖斷。(31・461)

(2) 冤罪 (名詞)

如今官府五日一比，兄弟張千，已自打死；小的又累死，也是冤枉。你丈夫的確未死，小娘子他日夫婦相逢有日。(40・635)

隨他天大冤枉加來，付之不理，脫去衣裳，絕無吝色，不是眼孔十二分大，怎容得人如此？(13・199)

C. 『古今』にないもの

倒黴 (運が悪い)、好玩兒 (面白い)、親熱 (心温かい)、熱心 (熱意がある)、討厭 (いやらしい)、痛快 (痛快である)、友好 (友好的である) 愉快 (愉快である)、圓滿 (円満である)

7. 社会の状況を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 進歩

『現漢』には(1)「(人や物が)発展する」(動詞)(2)「進歩的である」(形容詞)という意味があげられている。『古今』には形容詞の用法はないが、次のような動詞の用法がある。

(1) (学問が) 向上する

再過兩年，等你讀書進步，做娘的情願賣身來做衣服與你穿著。你那哥哥不是好惹的，纏他什麼？”

(10・152)

(2) 出世する

我夫若只在此相守，何時會得發跡？不若寫一書，教我夫往西京河南府去見我母舅符令公，可求立身進步之計，若何？”(15・225)

2. 平等

『現漢』には(1)「平等」(名詞)(2)「平等である」(形容詞)の意味があげてある。『古今』には(1)の意味では用いられないが、(2)の意味で用いられる。

若是倪善繼存心忠厚，兄弟和睦，肯將家私平等分析，這千兩黃金，弟兄大家該五百兩，怎到得滕大尹之手？(10・162)

『古今』ではまた次のように「普通である」という意味で用いられる。

隨你掙得有田有地，幾代發跡，終是個叫化頭兒，比不得平等百姓人家。(27・407)

清一打一看時，吃了一驚，道：“善哉，善哉！”正所謂：日日行方便，時時發道心。但行平等事，不用問前程。(30・446)

B. 『現漢』と同じもの

1. 窮苦(生活が苦しい)

貧人亦由前生作業，或橫用非財，受享太過，以致今生窮苦；若隨緣作善，來生依然豐衣足食。(31・463)

2. 自由(自由である)

情寵嬌多不自由，驪山舉火戲諸侯。只知一笑傾人國，不覺胡塵滿玉樓。(3・62)

貴逼身來不自由，幾年辛苦踏山丘。滿堂花醉三千客，一劍霜寒十四州。(21・297)

C. 『古今』にないもの

悲觀(悲觀的である)、保守(保守的である)、繁榮(栄えている)、反動(反動的である)、肥沃(肥沃である)、豊富(豊富である)、富裕(裕福である)、光榮(光榮である)、和平(平和である)、積極(積極的である)、樂觀(樂觀的である)、強大(強大である)、先進(先進的である)、消極(消極的である)、幸福(幸福である)、優越(優れている)

おわりに

以上調べた結果について数字をあげると、次のようになる。

	A	B	C	計
1	2	11	22	35
2	3	14	51	68
3	4	6	8	18
4	0	2	5	7
5	2	10	64	76
6	2	12	9	23
7	2	2	16	20
計	15	57	175	247
	6%	23%	70%	

調べた247語のなかでその70%は語自体が『古今小説』にみられない。また、約30%はすでに『古今小説』のなかに存在し、現代語のもつ意味のいくつかをもっている。

参考文献

- 漢語大詞典 羅竹風 漢語大詞典出版社 1989年
 近代漢語詞典 許少峰 團結出版社 1997年
 近代漢語詞典 高文達 知識出版社 1992年
 中國古典小説用語詞典 田宋堯 出版事業公司 民國74年
 宋元語言詞典 龍潛庵 上海辭書出版社 1985年
 小説詞語匯釋 陸澹安 上海古籍出版社 1979年
 現代漢語詞典(修訂本) 商務印書館 1996年
 國語詞典(節本) 臺灣商務印書館 民國58年
 古今小説 許政揚 人民文學出版社 1981年
 普通話三千常用詞表(增訂本) 鄭林曦 文字改革出版社 1987年
 中國語大辭典 大東文化大學中國語大辭典編纂室 角川書店 平成6年
 白話喻世明言賞析 葉桂剛 王貴元 中央廣播電視大學出版社 1991年